

「de mano(じまあの)」は、牛豚肉を加工する「まあの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まあの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。

「mano」はエスペラント語で「手」の意味です。生産と消費が「手」つながり肉流通を作り、「手」作業主体の職人の技術で肉を加工するという意を込めています。

まあの から
de mano
エスペラント語で「mano」は「手」、
「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まあの 【火曜定休】
兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6
☎ 06-6495-2546
☎ 06-6495-2900
✉ mano0298@snow.plala.or.jp
HP <https://www.e-sora.net/mano/>

初夏が近づいています

希望農場・6月農場たより 清野 光弘

5 月は、4 月とは違って変わり暖かな日が続き、雨もそれなりに降って、過ごしやすい月になりました。しかし6月に入るともう25℃近くまで上がっています。ここ3年くらいこれまでの北海道では考えられない暑さの夏になっていて、放牧豚たちは25℃以上の気温になると動きを止めて、木陰をさがして昼寝状態です。また、少しの水たまりがあるとそこに入り、身体中に泥をつけて体を冷やしています。豚は人間とは違い皮膚呼吸ができず、口と鼻の呼吸だけで、体温を下げるのが難しいのです。それでも、夕方気温が下がってくると農場内を走り回り、餌を食べています。放牧豚たちも心の中では、暑い夏にならなければよいと思っているでしょう。



世の中を見ると、米不足からの高騰が続いています。ここ厚真町は道内でも指折りの米の産地です。今年も田植えが終わり、農家さんたちも一休み。ただ放牧豚とは違い、暑い夏になるのを待ち望んでいます。米にとっては気温が高い方が生育が良く収穫も増えるからです。

米だけではなく、食料品などまだまだ値上がり傾向にあります。小泉農水相になってから、古古米、古古古米などを放出して、米の価格を下げる方向にあります。米以外も何かの対策をしてもらい、物価が上がらないようにして欲しいものです。皆様のところはいかがですか？ 蒸して気温も高く不快な季節となると思いますが、お身体には気を付けてお過ごしください。これからも皆様に安心して食べていただけるお肉を提供していくために努力いたします。

大鹿村においでください

BAU 牧場 青木連

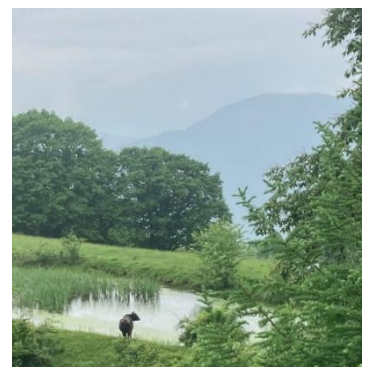
日頃よりアルプス牛のご利用ありがとうございます。初夏の山はとも青々しく美しく、この時期の山の景色が一番好きです。



皆さんが大鹿に来られるということで、お会いできることが楽しみです。夏の暑い時期ですので大鹿の涼しい(?)風を味わいに来てください。姉がやっている「農家カフェBAU」で村の食材を使った料理も食べれますよ。

我が家ではアルプス牛をはじめ、繁殖牛となる和牛の母牛・子牛を合わせて5~60頭飼育しています。夏の間は5~10頭程の母牛を、村内の山の上にある牧場へ放牧しています。自分も毎週牛の様子を見にいりますが、山の上は更に涼しく気持ちがいいです。母牛は産歴が多くなると母体や子牛への悪影響があります。そのため我が農場では出産は多くて10産までとしています。そんな歳を重ねた牛が5頭いて、今年引退してもらうことにしました。この牛たちは父の代から飼っていた牛で、これで父を知る牛はほぼほぼいなくなります。牛や父母への感謝と共に、牛飼いを継いだのだと改めて感じています。

リニア工事は日々続いています。とにかくダンプの量がすごいです。土日はダンプは走っていないので、皆さんに見てもらえないのが残念というか、静かなので運がいいと言うか。当日は掘削現場を一ヶ所、また帰りがけに隣村の喬木村にかかるリニアの橋梁工事現場を見に行きたいと考えています。大鹿村の工事は地下トンネルでダン



ブ以外はなかなか目に見えてこないですが、橋梁はすごい迫力です。村で工事が始まる前に見に行った山梨の姿を思い出します。ついにここまで来たかと。沿線ではこのような景色が連なっていくのです。

先日友人が我が家に鹿鹿を仕掛け、小鹿がかかりました。可哀想と思うかもしれませんが、大鹿村という名前だけあって鹿が多くて、大きな農業被害があります。その鹿はとんでもない美味しさでした。自分の育てた牛もとんでもなく美味しいと思います。色々なお肉、食材がありますが全てに感謝していただきます。

何もない不便な村ですが、何もないちょっと不便なところが好きです。その分、自分たちで作ったり工夫する良さがあります。母の作る畑は見事です。父の作った牛飼いという仕事があるお陰で今の自分があります。村の暮らしを少し感じていただけたらと思います。皆さんのお越しをお待ちしています。

山の記録

用瀬アルプス(鳥取市用瀬町) 7月2日



山らしく岩場が多い。8時45分、三角山頂上に三角神社本殿があり、最近建て替えたらしくきれいで立派でした。道は続いていきます。“アルプス”と名付けるだけのことはあり、アップダウン激しく、ほとんど岩場です。ロープ、くさり、木段が続く、道に迷うことはありませんが、足にきます。おおなる山避難小屋でちょっと休憩。ノートに感想をしたためました。さらに登って10時10分、やっとお



おなる山。また急降下して鬼ヶ岨。ここがこのルートが一番低い鞍部です。また登り返していきます。もうパンツまで汗びしょりです。

11時27分、やっと洗足山三角点。展望台もあり、歩いてきた三角山や用瀬町内も見えます。ここで昼食。ぬるい冷麺とおにぎり。さらに歩を延ばして12時7分、洗足山頂上。ここから本線と別れて鳥居野登山口へ下りていく道があるはずですが、見当たらない。しばらく歩いてみましたが、やっぱりおかしい。ここで遭難は嫌や！ 支所でもらったマップに電話番号が書いてあったので電話してみると通じました！ 「道に迷ったんですが…」 「道に詳しい人から電話させます」。しばらくすると、用瀬アルプスを知り尽くした人から電話をいただきました。『洗足山』の表示のところで右側を見てくださ



い」「あっ！ 赤テープが続いてます！」「ちょっと下りるとちゃんと看板もあるんですが…」 確かにありました。つまり、鳥居野から登ってきた人用の表示だったのです。これに味を占めて、それから下りていく途中にわからなくなると彼に電話をしていちいち確認しました。そのうち教えてくれたのは、洗足山から鳥居野登山口まで、30mピッチでピンを刺してあり、通し番号も書いてあるということ！ すごい！ これで迷うこともなくなりました。基本下っていくのですが、何度も岩場を通るのに登り返して、最後まで岩場と仲良しでした。2時10分、チャリを置いた鳥居野登山口にやっと戻ってきました。6時間半の長旅でした。戻ってから、あの親切な方に礼状をしたためました。



ニクヤノツブヤキ

- ◇ ロース余り問題でみなさんに窮状を訴えて、一斉にご注文をお願いしたら今度は足らなくなりました。いつまでもバタバタ人生の私です。 (幸治)
- ◇ 新しいパソコンで四苦八苦。AIに質問すると即座にくっく解決策を教えてくれるのですが、それでもなかなか使いこなせず、しょんぼりする毎日です。 (幸子)